

平成29年度 身近な教育委員会・保護者懇談会

教育委員会室から外に出て、区民や保護者がより身近に感じられる学校等で開催する「身近な教育委員会」及び、「保護者懇談会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：平成29年11月30日（木）10時30分～12時00分

場所：上板橋第四小学校体育館

概要：第1部 身近な教育委員会

「地域とともにある学校をめざして
～板橋区コミュニティ・スクールを考える～」

第2部 保護者懇談会

「地域とともにある学校となるために必要なこと」
「板橋区コミュニティ・スクールに期待すること」
※懇談・発表の要旨は、次ページ以降のとおりです。

参加者：64名

（内訳）保護者等 41名

教育長・教育委員 5名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員 上野広治委員

学びのエリア校長・副校長 4名

上板橋第四小学校 高見資宏校長 槇真吾副校長

前野小学校 村越信行校長

上板橋第三中学校 山口敦校長

教育委員会事務局関係者 14名

※上記のほか、近隣の校長先生方にも多数お越しいただきました。

平成29年度 保護者懇談会 グループ懇談・発表要旨

◎ 各班の発表内容

※時間が限られているため、7つの班のうち、4つの班に発表していただきました。

【A班】

- ・ 学校と保護者がしっかりと意見を話し合って、地域全体で学校や子どもたちを盛り立てていこうという気持ちが強くなった。

【C班】

- ・ グループ討議では、お集まりの皆さんの各学校の状況をお聞きすることができた。
- ・ 地域コーディネーターとして活動し、放課後授業を行っているのだが、手伝ってくれるサポーターが少なく厳しい面もある。
- ・ P T Aの役員の方々は、本当に頑張って活動されていると思った。
- ・ コミュニティ・スクールについて、これからどのような形になっていくのか、まだまだ分からないという印象が少なからずあった。

【D班】

- ・ それぞれのお話を伺ったことで、コミュニティ・スクールが、これからどのようにつくられていくのか、学校運営連絡協議会との関係性など、理解できた。
- ・ 今のところ、コミュニティ・スクールについて、よく知らないという保護者の方が多いと思うので、今後、どのように周知していくのが大事だと思う。
- ・ 学校と地域をどのようにつなげていくのか、方向性がまだ見えない難しさを感じているというのが、正直な感想だ。

【G班】

- ・ お話を伺っていて、当事者意識や親の意識がやはり欠けているのではないかと思った。
- ・ 意識の高い方も、そうでない方も存在しており、保護者会などでも人数が集まらなかったり、地域の問題なども全く知らないような方もいる。
- ・ 学校からは、良い情報は出てくるのだが、悪い情報は出てこず、学校の中や当事者のみで解決してしまおうという印象がある。
- ・ コミュニティ・スクールについては、先生方もどれくらい理解しているのか、気になるところだ。

◎ 教育長・教育委員の講評

【教育委員】

- 本日は本当にお忙しい中、多数お集まりいただいたことに感謝申し上げます。
- 皆様から、それぞれの立場で様々な良いお話を伺うことができ、貴重な場となりました。
- とにかく「子どものため」という言葉が出てきたことが印象深かった。
- PTAなどは本当に大変な活動だと思うが、原点は「子どものため」であり、それを思い出して日々頑張ってくださっている。
- コミュニティ・スクールが進んでいくためには、学校と地域、保護者など、相互理解を深めていくことが大事だ。
- PTA役員や学校の先生は入れ替わっていくものだが、コミュニティ・スクールというひとつの組織体であれば、持続して学校のことを継続的に考えていけるようになると思う。
- 本日まで参加いただいた方々は、とりわけ教育についての意識の高い方であると認識しているが、どうしても教育は学校任せというご家庭も多いのではないと思う。
- コミュニティ・スクールの必要性について、周知をもっと積極的に行っていかなければならない。
- また、コミュニティ・スクールの仕組みをどのように具体化していくのか、良い例などを示して理解を深めていく必要がある。
- 先駆的なロールモデルを作っていくのもひとつの方法だ。
- 校長先生をはじめとした学校の先生方にも、たくさん意見をもらって、ともに考えていきたい。
- コミュニティ・スクールを導入することで、負担感が増えるのでは意味がないと思うので、良い形を皆さんとともに考えていきたい。
- 本日はコミュニティ・スクールがどのようなものなのか、皆さんの心に種をまいた段階であり、これを地域の方々が肥料を与え、学校の先生方が剪定し、伸ばしていくイメージだ。大きな木となり、子どもたちというすばらしい実がなることを願っている。
- 大きな木が育つためには、やはり地域の土壌が大事であるので、皆さんが本日の会議で得たことを是非持ち帰って広めてほしい。
- 学校はスケジュールに余裕のない状況だと思うので、年に1回なのか、学期に1回なのか、最初は無理のないところから始めていくべきであり、その最初の一步が重要だと思う。
- 学校運営連絡協議会から発展していくが、そもそも学校運営連絡協議会自体が分かっていないという方も多いのではないと思う。
- 実際に始まってくると、リーダーシップが重要になる。
- コミュニティ・スクールの導入にあたっては、コミュニケーションが本当に大事だと思う。
- 教育委員会も、学校も、情報を発信しているつもりだが、伝わらなければ意味のないものだ。
- 区役所の中にいて、様々に検討するだけでなく、自分の足で皆さんのもとを訪れ、子どもたちのために何ができるのかをともに考え続けなければいけないとあらためて思う。
- 土曜日の学校公開の際、授業を見る以外に1時間くらい、学校と保護者が話し合う場をもてるようになると、相互理解に非常に役立つのではないと思う。